

会 議 録

1 会議名

令和元年度 第5回津有区地域協議会

2 協議事項（公開・非公開の別）

(1) 自主的審議事項について（公開）

①視察研修

②地域アンケート

3 開催日時

令和元年8月29日（木）午後6時30分から午後7時30分まで

4 開催場所

ファームセンター 農事研修室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者 氏名（敬称略）

- ・委員：江平幸雄、太田政雄、塩坪貞雄（副会長）、清水昇一、中嶋博
服部香代子、古川昭作、保坂和彦、丸山常夫、宮越隆一、山菅節子
吉崎則夫（会長）、渡部稔（欠席1名）
- ・事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、藤井係長、田中主事

8 発言の内容（要旨）

【田中主事】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、成立を報告

【吉崎会長】

- ・挨拶

【田中主事】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務める

ことを報告

【吉崎会長】

・会議録の確認者：山菅委員

次第3 議題「(1) 自主的審議事項について」の「①視察研修」に入る。事務局に説明を求める。

【田中主事】

・説明

【吉崎会長】

今の説明に質疑を求める。

(発言なし)

8月6日に長野県御代田町と坂城町へ視察研修に自分を含め9人で行った。視察研修の概要については資料記載の通りであるが、参加した各委員より感想を求める。

【江平委員】

実際に実施している人の状況等を聞くことができ、良かったと思っている。

【太田委員】

実際に現地に出向いたことは非常に有意義だったと思っている。

「えんじょの」は、内容自体は素晴らしいが、参加者が少ないというのは残念であった。

坂城町の循環バスは配布資料の時刻表を見ても分かるように、1分刻みでバス停があり、町内を周回しているとの話であった。これだけのことを長年続けていることが凄いと思ったが、同様の事業を上越市で実施することは難しいと感じた。

【清水委員】

「えんじょの」は代表が費用等の様々なものを個人的に出費して始めたということで、なかなか真似できない熱意があると思った。現在は近隣の地域にも広げるという取り組みをしてるということで、非常に素晴らしい方だと感じた。

次に坂城町の循環バスは、上越市で運用するには複雑な動きをしなければならないと思うため難しいように感じた。実際に出向いて話を聞くことができ、役場の担当者も非常に苦労があったかと思うのがありがたく拝聴できた。

【中嶋委員】

「えんじょの」は、ボランティアで活動しており、まだ立ち上げて間もない印象で

あったが、非常に大変な事業だと思った。今後、活動に対して行政がどれだけの補助や支援ができるかによって成功するかが決まると感じた。

次に坂城町の循環バスも、質問に対して色々と説明してくれたが、最初の説明時の勢いから徐々にトーンダウンした印象があり、次年度以降はどうなるのか微妙な感じを受けた。

現地に出向いて視察をすることは良いとは思いますが、我々の年代ではどうにもならないと感じている。年齢の若い方が参考にして取り組むことで前に向かって進めるのではないかと思っている。最終的に地域協議会として市へ提案をした場合、市がどの程度の補助金を出してくれるのかが問題だと思う。

【服部委員】

「えんじよるの」は代表のケアマネージャーの非常に熱い気持ちがひしひしと感じられた。しかし、利用者が4名のみで、登録者はそれなりの人数ではあるが仕事をしながら援助している人が多いとの話であった。今後チラシ配布等の周知活動をし、活動を広げていくと思うが、高齢者が利用登録すること自体が大変だと思うため、上越市でも同様の活動をする場合には登録等の方法について検討の必要があるように感じた。

次に坂城町の循環バスについては当初、路線バスが廃止されていて運行していることは知らず、路線バスと循環バスの両方があると受け取っていた。確かに路線バスがなければ、利用する人もいると思う。ただ実際に使用しているバスは小回りの利くタイプを使用していることは凄いと思った。しかし、費用も結構かかっていることを実感した。

【宮越委員】

「えんじよるの」については、実際立ち上げた方の熱意だけで動いていると思う。9月から本格的に開始するとの話であったが、今後どんな風になっていくのか、見ていく必要があると思っている。ただし、上越市或いは津有区で運営するとなった場合、誰が音頭を取るかという問題が出てくるように思う。そのため、先頭を切って行動するような人が出てこない限りは、はっきり言って難しいと考えている。熱意だけで成り立てば良いが、利用者や実際買い物する人がいるかの問題も出てくるため、成り行きを見たいと思う。

次に坂城町の循環バスについては、坂城町は財源に余裕があるように思う。工場も多いため固定資産税での収入も多いと思うが、これを上越市で置き換えると実現は難しい。上越市は財政的に非常に厳しく、はっきり言えば余裕があつてこそその事業だと思うため、

上越市或いは津有区での実施は難しいと思った。

【渡部委員】

参加した委員からも同様な意見が出たが、「えんじよるの」については、まだまだ発展途上といった印象であり、今後更に宣伝をして参加者を募り、利用者や援助者が増えないことには成り立っていかないと思った。今後は近隣の東御市等にもチラシ等を配布・設置するとの話であったが、今後どのような形に変わっていくのか、また機会があれば見てみたいと感じた。

坂城町の循環バスに関しては、路線バスの代わりとして利用してる人が多いような印象を受けた。上越市では利用者が少ないにしても、路線バスがある現状のなか、坂城町と同じように細かくバス停を設置して運行することは、難しいと感じた。

【塩坪副会長】

「えんじよるの」については、まだ利用者と援助者が少ないとの話であった。しかし、方式自体は良いと思うため成功して欲しいと思っており、成功した際には上越市内でも取り入れてはどうかと思っている。

次に坂城町の循環バスについて、同様の事業を上越市で実施する場合、バス事業者が運行している路線バスとの兼ね合いが出てくる。津有区だけで考えると、地域が一本道ではないため、循環方法等の問題で結局赤字が増えていくように思う。バスの問題については、どうしたら良いかが今後の議題になってくると思う。循環バスのやり方は非常に良いと思う。また、路線バスがないということで始まったと思うが、上越市には路線バスがあり、乗車する人がいないだけで運行はしている。今後は路線バスをどうして行けば良いか検討していきたいと思う。

【吉崎会長】

次に参加できなかった委員から、今ほどの感想と資料を見ての感想や意見を求める。

【古川委員】

欠席したため肌で感じることはできなかったが、資料の文面を見ての感想である。

「えんじよるの」は立ち上がって間もないこともあり、なかなか告知できる状態がまだまだ低いようも思うため、今後に期待したい。

次に循環バスについては、気軽に乗降できることは非常に良いと思うが、経費倒れにしなければ良いと思っている。立ち上がった以上は一生懸命に告知して頑張ってもらいたいと思っている。

【保坂委員】

参加した各委員からの感想にもあったように、「えんじよるの」を利用する高齢者も簡便に利用でき、実際に運営していく側もあまり負担にならずに簡便に実施できる方法というのが大事であると実感している。

次に坂城町の循環バスは、例えば津有区ではバス事業者が運行している路線バスがあるため、事業者との兼ね合いが出てくるように思う。実際に運行するとなった場合、バス事業者と協議する機会が必要になる気がしている。そういう点では課題も幾つかあると感じた。

【丸山委員】

資料を見た中で、「えんじよるの」については自分自身あまりピンときていない。しかし、将来的には自分自身にも関わってくるのかと痛感している。

次に坂城町の循環バスについては、大変に凄いと感じている。やはり坂城町自体に財力があり、循環バスを運営していると思う。やはり財源という言葉が前に出てくると思う。ぜひ、上越市でも行く末はこういった形を実行してもらえればありがたい。自分も年をとり車にも乗れなくなる時がいつかは来ると思うため、循環バス等があれば本当に便利だと痛感した。

【山菅委員】

「えんじよるの」については、現在買い物をケアマネージャーに依頼している高齢者が非常に多いため、この様な事業があれば便利だと思う。しかし上越市での実施は難しいように思う。

次に坂城町の循環バスについてである。上越市でマルケーが運行している路線バスの路線がどんどん廃止されてきており、だんだん利用しにくくなってきていることは確かである。そのため坂城町の循環バスには大変に興味がある。循環バスのようなものが運行していたらありがたいと思う。

【吉崎会長】

「えんじよるの」については需要者がどの程度いるのかにかかってくる。買い物代行をしてくれる援助者については何とかなるように思うが、利用者がどの程度いるのかが一番ネックとなると思う。どの程度の高齢者から登録してもらえるのかが問題となる。もし上越市内で実施する場合、広告や周知等に力を入れなければならないように思う。

次に坂城町の循環バスについては、金額が高い。委託料が年間で2,500万円程掛かっ

てる。マイクロバスを2台使用しているが、それを維持することは難しいように思う。坂城町では現在、別の方法も検討しているとの話もあった。それらを考えると上越市或いは津有区での循環バスの導入は難しいと思った。また、「えんじよるの」の代表の話ではバスの運行やコミュニティバスについては大体どこも赤字だとの話であった。それらを踏まえると循環バスやデマンド交通の運行実施は費用があれば別だが、予算的に余裕がないため、実現は難しいと感じた。

以上で視察研修についての感想を終了する。

次回以降、視察結果を基に自主的審議事項の協議を進めて行きたいと思う。以上で次第3議題「(1)自主的審議事項について」の「①視察研修」を終了する。

次に「②地域アンケート」に入る。事務局に説明を求める。

【田中主事】

・説明

【吉崎会長】

今の説明に質疑を求める。

(発言なし)

協議に入る。前回の協議会にて確認し、修正したものを配布している。これらについて記載の設問内容で良いかの最終確認を行うため、意見を求める。

【服部委員】

「若者向けアンケート」にはアンケートの冒頭に実施する目的の様な記載がある。しかし、「世帯主向けアンケート」には記載がないが、記載しなくても良いのか。

【田中主事】

「世帯主向け」アンケートについても同様の記載をする。ただし、広報「つあり」に記載できるスペースは限られているため、アクセスした先のアンケートの冒頭にそれぞれ記載したいと考えている。

【吉崎会長】

他に意見はあるか。

(発言なし)

では、「若者向けアンケート」及び「地域主向けアンケート」について、この内容により実施することで決定してよいか。

(よしの声)

それでは、この内容で地域アンケートを実施する。

以上で次第3 議題「(1) 自主的審議事項について」の「②地域アンケート」を終了する。

次に次第4「その他」の「次回の開催日について」に入る。

— 日程調整 —

- ・次回の協議会：10月10日（木）午後6時30分から 津有地区公民館 中会議室
- ・内容：自主的審議事項について
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690（直通）

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。